



児童・園児たちは「秋になったら収穫して、おいしい焼き芋を食べることが楽しみ」と話していました

須木の児童・園児がさつまいもの植え付けに挑戦

4月28日、すきむらづくり協議会（富永圭一会長）が、中河間地区のほ場でさつまいもの植え付けを行いました。当日は、須木小学校の児童と須木中央保育園の園児も作業を体験しました。同協議会の中間正路事務局長の植え方の説明を受け、児童・園児たちと会員で約2千本の苗を植えました。

正しいごみの分別を学ぼう

4月20日、市地域婦人連絡協議会野尻支部の総会にあわせて、ごみ分別研修会が開催されました。NPO法人赤とんぼの職員が、市のごみの現状について説明した後、4月から変更になった点を中心に、正しいごみの分別方法を学びました。



のじりローズフェスタ 2021 開催

5月9日、のじりローズフェスタ 2021 が開催されました。大塚原バラ園の、摘みたてのバラを使って作る“ばらアレンジメント”のコーナーでは、参加した子どもたちが母の日のプレゼントとして花かご作りに挑戦していました。



第35代コスモスレディに平木場さん就任

5月1日、コスモスレディの選任式が行われ、第35代コスモスレディに平木場里穂さんが就任しました。コスモスレディは、1年間の任期のなかで小林の魅力をアピールするために活動していきます。平木場さんは「コロナ禍でもできることはたくさんあると思います。SNSなどで小林をPRしたい」と意気込みを話しました。



小林市観光協会の吉留高志会長は「積極的な情報発信をしながら、経験や出会いのある活動をとらえて、充実した1年にしたい」と激励しました

市の教育発展をめざし教員が研究

5月10日、市教育研究センターの研究員として市内小・中学校の教員20人に委嘱状が交付されました。市の教育のあり方を研究し、教育の充実を図ることが目的で、今年は「各教科でのタブレット型PCの活用方法」の授業実践などが研究されます。



ボランティアなどが出の山公園を清掃

5月11日、ホテルの生息環境保護を目的に、観光協会、商工会議所、地元業者やボランティアなど約80人が出の山公園周辺の草刈りやゴミ拾いを行いました。なお、今年の「出の山ホテル恋まつり」は新型コロナウイルス感染症の影響により中止になりました。



JAこばやしメロン部会長の中岡俊彦さんは「コロナで帰省できない人に地元メロンとマンゴーを送って食べてもらえると嬉しい」と話していました

今年も特別企画販売を実施 消費拡大へメロンとマンゴー贈呈

4月30日、第10回メロン・マンゴーフェア開催にあわせて、JAこばやしメロン部会（中岡俊彦部会長）とマンゴー部会（松田泰一部会長）が、「めろめろメロン」と「太陽のタマゴ」を市長に贈呈しました。今年も感染症拡大防止のため会場でのイベントは行わず、特別企画販売として予約注文とドライブスルーでの販売が行われました。

青少年の健やかな育成のため寄付

5月7日、小林ライオンズクラブ（梅本孝司会長）が小林社会福祉協議会（吉丸政志会長）に寄付金の贈呈を行いました。コロナ禍で社会福祉の寄附の減少が著しい状況であることを知り寄付を決めたもので、寄付金は子育て支援など青少年育成のために活用されます。



小林教育のさらなる充実へ取り組む

5月に任期満了を迎える、中屋敷史生教育長（写真㉔）への辞令交付式が5月10日に行われ、令和6年5月9日まで再任されました。また、あわせて新たに教育委員となる廣崎真美さん（写真㉕）の辞令交付も行われました。



子どもたちの夢を聖火に託して 南小で聖火リレー記念イベント開催

4月21日、南小学校で本市の聖火ランナーを務めた福留健一さんを招いた、聖火リレー記念イベントが開催されました。福留さんは平成13年から3年間、南小の校長として在籍。イベントでは、各クラスの代表が手作りのトーチを掲げてつなぎ、最後に児童全員の将来の夢などが書かれたタスキと一緒に福留さんにつなぎました。



福留さんは、「みなさんの希望や夢や願いを、聖火ランナーとしてしっかりとつないできたいと思います」と話していました

物品販売の利益を子どもたちのために

4月19日、小林こすもすライオンズクラブ（中別府正吾会長）が市に寄付を行いました。同クラブの物品販売の売り上げを寄付したもので、中別府会長は「コロナ禍で子どもも大変な思いをしている。保育園・幼稚園で役立ててほしい」と話していました。



ウェブシステム開発の地方拠点を新設

4月19日、小林駅前新たなオフィスを開設した(株)みつばシステム（愛知県本社・中島大介代表取締役（小林商業卒）：写真㉖）が県の立地企業に認定され、認定書が交付されました。IT企業進出により新分野の雇用増加や地域活性化が期待されます。

